

足立区基本構想審議会 第1回経営改革専門部会 会議録

日 時 平成27年9月24日（木曜日） 午後2時から4時

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会 経営改革専門部会委員（8名）

田中隆一委員、足立義夫委員、石橋穂治委員、北川千恵子委員、ただ太郎委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、石川義夫委員

事務局 政策経営部長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

オブザーバー 政策経営部2名、総務部3名、資産管理部2名、区民部1名

議題等 1 部会長および副部会長の選出

2 今後の討議の進め方

3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像（報告）

4 意見交換（現状と将来の課題の整理）

5 事務連絡

資 料 【資料 経①】足立区基本構想審議会 経営改革専門部会名簿・日程

【資料 経②】今後の討議の進め方

【資料 経③】経営改革専門部会 基礎情報及び審議会意見一覧

【資料 経④】区の財政見通しについて

【資料 経⑤】経営改革専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

【資料 13】「区民あだちサロン（座談会）」及び「中高生ワークショップ」
将来像

1 部会長及び副部会長の選出

基本構想担当課長：お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会第1回経営改革専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。私は事務局の基本構想担当課長、山本と申します。この後、専門部会の部会長及び副部会長が選出されるまでの進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、専門部会の開催中は、事務局の他にオブザーバーとして関連する区の職員にも出席させていただきます。本日は政策経営部・総務部・資産管理部・区民部の職員です。本日の審議の内容を、今後の各計画や事業運営などに活用させていただきますが、必要に応じて事業等に関する質問がございましたら回答させていただきます。ただし、担当事務の関係等でこの場でお答え出来ないものは、後日の対応等とさせていただく場合もございますので、ご了承をお願いいたします。

それではお手元の資料の次第をご覧ください。1番目の部会長及び副部会長の選出です。足立区基本構想審議会条例施行規則第4条に基づき、各専門部会の部会長には議事の整理を、副部会長には、部会長に欠席等の事故があった場合の代理を務めていただきます。共に委員の互選により決定いたします。恐れ入りますが、次第の次にございます経営改革専門部会委員名簿をご覧ください。まずはこの中から部会長の選出ですが、どなたがよろしいでしょうか。

足立委員：田中先生にお願いしたいと存じます。

基本構想担当課長：ただいま学識者委員の田中委員とのお声がありましたが、田中隆一委員は東京大学社会科学研究所准教授でいらっしゃいまして、労働経済学や教育経済学などがご専門です。また、足立区の行政評価における区民評価学識者委員としてもご尽力いただいております。部会長としてご異存がないようでしたら、拍手でご承認をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは田中委員に部会長をお願いしたいと存じます。続きまして副部会長についてはいかがいたしましょうか。

田中部会長：足立委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

基本構想担当課長：ただいま足立委員とのお声がありましたが、足立義夫委員は、足立区商店街振興組合連合会代表理事でいらっしゃいまして、区政運営においても多大なご協力をいただいております。副部会長としてご異存がないようでしたら、拍手で

ご承認をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは足立委員に副部会長をお願いしたいと存じます。ここからは田中部会長に進行をお願いしたいと存じます。

田中部会長：改めましてこんにちは。ただいま部会長に任命していただきました田中隆一でございます。今ご紹介をいただきましたように、私は経済学を専門としておりまして、労働経済学・教育経済学を専門としているわけですが、足立区においては区民評価委員会、特に子ども分科会の分科会長を3年半、2期4年目ということですが、務めさせていただいております。今回は基本構想審議会の経営改革部会の長ということでありまして、今までの例えば子ども分科会やくらし、まちづくりといった分科会で、それぞれの課題というものがあって、それぞれの事業に対していろいろ評価をする作業を行ってきたわけですが、経営改革部会というのはおそらく一番イメージをしにくいような部会でして。なぜイメージをしにくいかと言いますと、すべてのことに関係があるということで、個別の課題よりも、すべてのことにそれなりに関わっていることになります。

かつ、それぞれの分科会から上がってくる施策というものを可能にするために、行政をどういうふうに戻していくのかということを実際に考えるという意味では、非常に重要な分科会であるとも思いますので、ぜひ皆さん、活発なご議論等よろしくお願いしたいと思います。

2 今後の討議の進め方

田中部会長：それでは早速ですが審議に入りたいと思います。配付資料の確認をまず事務局からお願いします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きまして資料経①と表示のある経営改革専門部会の委員名簿と日程です。続きまして資料経②と表示の今後の討議の進め方です。続きましてA3版で資料経③と表示の経営改革専門部会基礎情報及び審議会意見一覧です。続きましてA4版の資料経④、区の財政見通しについてです。続きましてA3版の資料経⑤と表示の経営改革専門部会課題整理及び将来像等検討シートです。続きまして資料13と表示の区民あだちサロン及び中高生ワークショップ、私たちの考える足立区の将来像ですが、全体会でも配付したものを更に有効活用していただきたく、再度配付させていただきました。最後に、委員の皆様には参考として前回の会議録を配付してござ

います。26 ページです。資料の不足はございませんでしょうか。以上です。

田中部会長：資料は皆さんお手元にあるということで、もし何か後で不足分が見つかったとしてもその時でかまいませんので申し出ていただければと思います。

それでは次第の2、今後の討議の進め方についてです。これについての資料を事務局から説明をよろしくお願いいたします。

基本構想担当課長：それでは資料経②と表示の今後の討議の進め方をご覧ください。前回までの全体会では、検討素材や区民あだちサロンの意見等もご参考にしていただきながら、足立区が置かれている現状やこれまでの区の取り組み、将来の課題などについて意見交換をしていただきました。そして各専門部会に調査を付託された項目が、この資料の1の①、将来像、目指すべき将来の姿を示す都市像と、②将来像を設定した根本となる考え方、基本理念です。三角形の図をご覧ください。一番下の基本計画を除いた項目が基本構想に当たります。部会としての区の将来像とそれを設定した根本や背景である基本理念を3回の部会で考案していただき、その後の全体会でまとめ上げていくこととなります。将来像を実現するための基本的方針についても、全体会での討議となります。なお、将来の時期の捉え方については、10年後から30年後ぐらいまでの間ということでお考えいただきたいと存じます。

続きまして下の2の検討プロセスです。表の太枠部分が部会としての将来像や基本理念を考案するためのプロセスです。専門部会の第1回、本日については現状と将来の課題について全体会に引き続きまして、経営改革分野としての意見交換をしていただき、その論点などを整理していただきます。それを元にしたまとめの案を次回の第2回でお示ししますので、第3回目まで討議を重ねながら固めていっていただきたいと存じます。表の下部分は全体会についてとなっております。以上です。

田中部会長：ご説明どうもありがとうございました。今後の討議の進め方でピラミッドの絵が載った資料がありますが、上の方に将来像、あとは次に基本的方針ということで、一番最後に基本計画というのがあるわけですが、この審議会では上の二つの部分について議論を進めていくということでございます。なかなかイメージをつかむのが難しいわけですが、例えば一番上のところにある将来像というところですが、こうあるべき、もしくはこうあってほしいというイメージを考えていくわけですが、必ずしも一つ何か選ばなければいけないというわけではなくて、もし必要があれば複数意見を出していくことも可能だと思います。

次に、基本的方針。そこの部分で考えていく基本理念ですが、将来像の根本背景となるような普遍的な考え方を議論していくわけですので、出来るだけ大きな話ということで、かつ簡潔、場合によってはキャッチーなものを考えていくことにもなるかもしれません。あくまでも例としては、例えば一生涯の幸福を目指すとか、人権を尊重するとか、健全な自治体の運営を推進していくといったことも考えていくことが出来

と思います。もちろん皆さんご自由にご議論をいただくということになりますので、ぜひ活発にご意見を出していただければと思います。

あとは基本構想ということですので、何も来年・再来年までの話というわけではなく、この後 10 年、20 年、30 年と非常に長いスパンの話を考えていくわけですが、なかなか 10 年後であれば、私も 10 年後は多分生きているという確信とまでは行きませんが思うのですが、30 年後、50 年後になるとなかなか難しいわけです。そういう時に、非常に長期的なことを考える際に、一つのやり方と言うかイメージの持ち方として、例えば皆さんお子さんがいらっしゃれば、そのお子さんが自分と同じぐらいの年齢になった時に、どういった区であってほしいかということのを少しイメージしながら考えていただけるとよろしいかと思います。

この後、本日のメインイベントは意見交換でして、既に今まで 1 回、2 回、3 回と全体会でいろいろなご意見を出していただいているわけですが、全体会では手を挙げて発言しにくいということが、私も含めてそうなのですが、そういう方のためには今日は非常にいい機会ですので、ぜひ活発なご意見・ご議論を行っていただければと思います。

今までの資料等について何かご質問等があればよろしくお願いします。

北川委員：今までどういうふうに進めていくかというお話がありましたが、最終的な成果物というのは、初回の委員会で配付されたものをイメージして、この程度のものをイメージしていればいいのでしょうか。それとも全く違うものなのか。これは平成 16 年 10 月で 10 年スパンで平成 28 年ぐらいまでのものということで理解していますが、今回もこういうものをディバイスしたものを作るということでよろしいでしょうか。

田中部会長：そうですね。これについて事務局からよろしくお願いします。

基本構想担当課長：そのあたりもどういうスタイルになるかは、今後皆さんとお話をしていければとは思いますが、今お持ちのものも一つのスタイルだとは思いますが。こういった将来像を答申しますと言って、その背景にあること、これまでの区の現状・課題で討議したこと、そういったことをまとめる報告書としては、それぐらいの分量になるとは思いますが、あとはこれまでの分科会ではもう少しコンパクトでいいとか、もっとページが多い方がいいとか、そういったお話もありましたが、まずはお持ちのものを念頭にいただいて、どのぐらいの分量にするか、スタイルにするかは今後。今は部会としてのご意見をいただいて、その後議論をさせていただければと存じます。

田中部会長：他にいかがでしょうか。

石橋委員：同じような質問ですが、現行の基本構想についてですが、現行の基本構想

では、基本理念が「協働で築く力強い足立区の実現」ということで、我々が当面やらなければならない将来像について言えば、現行のものを三つ挙げています。生活都市・安全都市・文化都市、それぞれ形容詞が付いています。それでこれと同じレベルのことを、今回この場で、今あるこの 16 年版の基本構想がもうこれで無理だから、あるいはこれでは現状にマッチしないから変えようということなののでしょうか。私は、この基本理念だとか将来像というのはほとんど変わりがないように思うのですが。例えば魅力と個性ある美しい都市、生活都市という将来像を挙げていますね。2 番目に支え合い安心して暮らせる安全都市。3 番目に人間力と文化力を育む活力あふれる文化都市。こういうふうに将来像を決めたわけですが、これでどうしていけないのか。

というのは、変えることはどんどん変えていいと思うのですが、この現状の基本構想にどこがマッチしなくなってきたのかということをはっきりさせておかないと、成果物を公にした時に、受け取った区民の側は、なぜ今までのものが変わって、どうして変えなきゃいけなかったのかと。いずれにしても議論をして成果物として出てくるのは抽象的なものになると思うんですね。その辺のところを整理しておかないと、全く従前のものをなしにして、ゼロから始まるようなことになっていると、全部のその P D C A が回っていくのかという話と必ずつながってくると思うのですがいかがでしょうか。

基本構想担当課長：ご意見ありがとうございます。私見になりますが、今に通じるような将来像も確かにございますが、ここで過去のもはもう駄目とか古くなったということでは決してございません。あくまでも計画期間が 12 年間。平成 28 年までとなっておりますので、改めて策定する必要があるまして、またご議論をいただいているところです。ですので、現在のものが古くなったということではございませんで、踏襲するものは踏襲していてもよろしいかと思えます。またいろいろ多様化してきていまして、課題等も新たに発生しておりますので、そういったところも捉えていただいて、三つとは限りません。四つ五つということも考えられますが、これから 3 回の専門部会でご意見を交わしていただくと、またこういった視点が必要だということも出るかもしれませんので、そういったところも踏まえて考案していただければと存じます。

田中部会長：どうもありがとうございました。私から補足なのですが、今までの基本構想がゼロにしてまた一から作ろうという気持ちでいてかまわないと思うのですが、そういった際に今日もいろいろな現状について、課題等も含めて皆さんで意見を交換していくということでやっていくわけですので、今までの基本構想という視点から見、この点がまだ現状の課題として残っていると。それを今後どうやって解決していくのか。その上での非常に長い目で見た構想を考えて行く場に出来ればと思っています。本当に今までのものでいいじゃないかと。それもその通りだと思います。使えるものはどんどん使っていこうと。ただし、過去の 10 年において、さまざまな区を取

り巻く現状も変わってきていますので、そういったことがおそらく今日、また次回あたりの現状の意見交換の中で明らかになっていくのではないかと思いますので、こういった視点からやはり課題として残っているといった意見を出していただけると、おそらく次に話を持っていきやすいのではないかと思いますので、ぜひ活発にご意見をいただければと思います。

他にいかがでしょうか。ないようでしたら、またお気付きの点があれば後からまたご意見をいただければと思います。時間が限られておりますので、次の次第に移りたいと思います。

3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像

田中部会長：それでは次第の3でございますが、資料について事務局から説明をお願いいたします。

基本構想担当課長：それでは後の意見交換の際にご活用いただきたい資料4点についてご説明します。まずはA3版の資料経③と表示された経営改革専門部会基礎情報及び審議会意見一覧をご覧ください。上の段の基礎情報は、検討素材の中から区の現状、現行基本構想に対する区の見取り等と分けて、主な項目の見出しを抽出したものです。下の段は第1回から第3回までの審議会全体会でいただいた意見を、経営改革分野に関連する分と、4専門部会共通と捉えた分についてそれぞれ現状と将来の課題に分類したものです。

続きましてA4版の資料経④、区の財政見通しについてをご覧ください。これは第3回審議会全体会での、介護等の扶助費は増加しても税収が増えないあたりをどのように認識するかが大事なため、データで示すようにというご要望に基づき作成したものです。将来の財政状況については、第2回審議会での資料9でもご報告しましたが、その際は扶助費や施設更新経費などは伸びていくと予測しておきながら、区の歳出総額は計画上抑えていくという説明のみでございました。今回はこれまでの決算状況を元にして、増加し続ける区の歳出総額と、一方で伸び悩む税収等が懸け離れていく見通しであるとお示しするものです。

中程のグラフについては、いろいろと重ね合わせていて補足が必要ですので説明させていただきます。左側の2本の棒にご注目ください。このうち左が平成13年度の歳入総額で、右が歳出総額です。14年度以降も歳入と歳出の2本を並べていっています。13年度の左の棒で緑色部分が区民税の収入です。その上にある青色部分が23区の財政状況に応じて東京都が交付する財政調整交付金です。この緑と青の合計額について、点で各年度を結んでいくとほぼ一直線に示せます。次は13年度の右の棒についてです。赤色部分が普通建設事業費の支出。その上にある紫色の部分が扶助費の支出です。この赤と紫の合計額についても、点で各年度を結んでいくとほぼ一直線に

示せますが、将来的には逆転してしまうようにも見えます。つまり、歳出に対して歳入が不足していくこととなれば、例えば歳出を見直していくとか、あるいは歳入を増やしていくという対策が必要となります。関連しますが、上の方に記載の1番、歳入についてをご覧ください。次の行、財政調整交付金は、平成28年度より約60億円の減収が見込まれ、更に深刻な状況となります。

それでは裏面をご覧ください。先ほどは区の一般会計についてでしたが、こちらは介護保険特別会計のうちの給付費について、事業計画を元に棒グラフでお示ししました。要介護者の増加などにより、平成27年度の489億円が、37年度には685億円と大きく増加します。これらは主に区民の介護保険料負担に影響してくる問題でもありますし、緑色の線で結んでいる区の負担額も大きくなっていく状況であります。27年度の61億円を、先ほどの一般会計の中で負担しておりますが、37年度には86億円の負担となる見込みです。

次の資料経⑤の検討シートは、後の意見交換でご使用いただきます。必要に応じてメモ等取っていただければと思います。

続きまして、資料13の私たちの考える足立区の将来像につきましても、区の良いところと不足するところがたくさん出されております。青色の四角で囲った「経」という字が各項目に付いておりますが、経営改革関連を示した意見などです。それから特に7ページ、8ページは将来像の考案に参考にさせていただきたいと存じます。以上です。

田中部会長：どうもありがとうございました。今たくさんの資料についてご説明をいただいたわけですが、まず一番最初にご紹介をいただいた経③というのは、今までの議論をまとめた資料でして、実は皆さんの目の前のホワイトボードに、もう既にこの現状とあとは将来課題について、今まで出てきた意見については付箋に内容を書いて貼ってございます。ですので、こちらの現状と将来課題で経営改革分野に関連するもの、あとは一部はすべての分野に関連するものも含まれているわけですが、その意見をまとめた紙、付箋がここに貼ってあるということでございます。

続きまして資料の④、区の財政見通しについてですが、これは歳入・歳出についての資料でして、経営改革部会にとって一つ大きな話として、やはりその財政状況というものについての話が出てくると思います。それについての資料でして、歳入と歳出。特に扶助費は、これから少子高齢化を通じてどんどん増えていくということですので、ここら辺をどういうふうに折り合いを付けていくのかということも、10年、20年、30年という長いスパンで考えていかなければならないということでございます。

それで一番最後にご紹介があった資料13、これは既に全体会でも配付をいただいた資料ですが、こちらに中学生・高校生というこれから大人になっていく方々の貴重なご意見がありますので、こういったものを十二分に活用しながら議論を進めていければと思っております。これらの資料について、何かお気付きの点、またご質問等あればよろしく願いいたします。

北川委員：今回財政状況のご説明をいただいたのですが、これは近々と言うか、平成 29 年前後に予定されている大規模改築に関する費用も入っているのでしょうか。

政策経営部長：今日の資料は 27 年度までの実績です。この先の施設更新の経費についてはここには入っておりません。

北川委員：それは年度が違うから入っていないのですが、今回の検討には必要ですね。

政策経営部長：以前出しています。今日の資料ではなくて。

北川委員：そうですけれども、今日これから討議をするにあたっては、これは非常に大きいことだと思いますが、それについては、もう説明したものなので、今回はそれも踏まえて、今日いただいた資料と合わせて検討せよということによろしいですか。

政策経営部長：そうです。検討素材の 68 ページに公共施設の老朽化ということで、今後の施設の維持・補修・管理が出ておりますので、そちらは以前配ったものです。

北川委員：経④という資料については、平成 27 年度までのことなので入っていないということですね。

政策経営部長：実績ですから。

北川委員：実績だけでも必要ですね。

田中部会長：実績とあとはこれからの計画が入ったものは以前にお配りいただいた資料にあるということだと思います。あくまでも今回の資料というのは、これで将来の予想というのが、実績から予測するという資料になっていると思います。当然その基本構想は将来の話ですので、以前お配りいただいた資料に基づいて議論を進めていくことは重要だと思います。そういった視点でよろしくお願いします。

北川委員：それがすごく重要なのであえて質問させていただきました。

田中部会長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

ぬかが委員：資料経④の介護保険特別会計の給付費と区の負担等の推移ということで、先ほどご説明をいただいたこれは区の負担額だけが書かれているのですが、いわゆる

区側の負担額です。いわゆる公的な負担額というのはすべて大体半分ぐらいだろうというのも、一緒に確認しておいた方がいいのかなと。つまり、残った部分が保険料や区民の負担になるわけです、このグラフで言うと。けれども、区の負担額の部分しか折れ線では入っていないということが一つ。あとは、現状はこうですが、介護保険制度前ですと、また負担がちょっと違ってきますよね。だからなぜ介護保険特別会計だけを今回こうやって出されたのかというのは、ちょっと不思議ではないです。しかもそういう財政負担ということで言うと、公費負担、いわゆる区の持ち出しも大事だけれども、公費負担と区民負担という分け方も必要だと思っているのですが。

基本構想担当課長：まず介護保険特別会計の区負担だけをお示ししたということでは、委員がおっしゃる通り、国や都の補助金等で持つ部分もございます。そういったところなのですが、これは将来の事業計画の中で、給付費とあとはそれに区の負担割合というのが計算上割合が決まっておりますので、導き出せたということで、国の補助金等は記載出来ずに申し訳ありませんでした。いずれ予算立てをする時に表示されていくものと思われま。

介護保険特別会計だけをお示ししたのも、これも国民健康保険特別会計や後期高齢者医療特別会計もございますが、そちらの将来的なデータが間に合わなかったということと、前回介護のところは特に資料提出のご要望でありましたので、そういったところで取り急ぎご用意したところでご容赦いただければと存じます。

ぬかが委員：国や都も補助金と言うよりは、区と同じように負担額ですよ。区が12.5だから都も12.5%ですよ。そして国は20%ないし25%ということなので、何か別に補助金が来るという関係ではなくて、実際には公費負担と区民負担という点で行けば半々だということで確認出来ればいいかなと思っているのですが。

4 意見交換

田中部会長：他にいかがでしょうか。特にないようでしたら、次の次第に移らせていただきます。それでは次第4、本日のメインですが意見交換でございます。前回の全体会に引き続き、現状と将来の課題について皆さんからご自由にご議論をいただくといいわけですが、資料経⑤の検討シートの左側部分になります。こちらの左側に大きな欄があるわけですが、こちらに経営改革専門部会の課題。将来の課題と現状について、本日皆さんのご自由な議論というのをお願いしたいと思います。議論の進め方は、先ほど少しお話をしたのですが、本日はより多くのご意見というものをいただきたいということですので、ご質問等があるとは思いますが、皆さんのお考えというものを中心にご意見として出していただければと思います。

あとは既に、第1回から第3回までの議論で出てきた現状と将来の課題については

既に前のホワイトボードの方に貼ってあるわけですが、本日も皆さんからいただいたご意見を紙に書いて、それをホワイトボードに貼っていくということで、何らかの意見のまとまりがあるのかどうか分かりませんが、もしあるようであれば、そういった意見を見ながら議論をどんどん進めていきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、経営改革部会というのは、非常にすべてのことに関わっている部会ですので、議論は本当に多岐にわたると思うのですが、例えば、私の経験で、今まで区がメインという場所で経営改革というところでどういうことが議論されてきたかという、一つは財政の話。区の財政、歳入と歳出というのは今後どう推移していくのか。それによって区はどういうふうに対応していくのかということがまず一つ大きな柱としてありました。またもう一つ別の柱としては、区民または民間、または大学との協働をどのように促進していくかという視点も、一つ大きな議論の柱だったように思います。

更には、区民の参画というところにも非常に関連してくるわけですが、区民の世論調査の意見をどれだけ反映するのか。または区政がどれだけ外に向かって発信されているのか。例えば広報であったり、シティプロモーションといった政策を通じて、足立区の取り組みというのがどれだけ外に向けて発信出来ているのかといったことも一つ経営改革部会の柱になっていったと思います。

そういった意味では、この部会は非常に多岐にわたるのですが、何とかしてその行政・区政というものをうまく回していく。それを更に外に向けて発信していったら、それによってさまざまな主体を取り込んでいくという点で非常に重要な部会であると思っています。ぜひともさまざまなご意見をお願いしたいと思います。

今三つ柱の話をしたのですが、そうは言っても経営改革部会で扱うことというのは、それに限らずさまざまなこと、より広いものを見ていくことも重要だと思いますので、本日は第1回目ということですから、本当に思ったことを何でもかまいませんので、自由にご意見をまずは出していただくと。それをホワイトボードの上で少しずつ整理しながら、もしまとまりがあるのであれば、そのまとまりを少しずつ見ていくというのが第2回、第3回の作業になってまいります。今日は皆さんのご発言というのが非常に重要になりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

では早速ですが、自由にご意見を出していただくと。特に今まで出てきた論点について、補足的に前回私はこういうふうに言ったけれども、それを更に補足してこういうふうな論点というものがあれば、追加的なご意見として出していただいてもかまいません。今まで出てこなかったような論点を新たにご提案いただくということも可能です。ぜひよろしくお願いいたします。

足立委員：経営改革分野の⑤、大学が増えるというので、担税力のある人材が流入する。この他に私もう一つ、犯罪が少ない安心・安全なまち、これも担税力のある人がどんどん増えてくると思います。例えば、そういう方が子育て中の方にして、他の市から足立区に安全・安心なまちだから子どもの教育にもいいということで、私はどん

どん流入してくると思います。そういうことはいかがでしょうか。

田中部会長：そうですね。犯罪をなくすことによって、安心・安全なまちを作ること
で、よりたくさんの人々を呼び込めるという視点では、まさに5番に書いてある話の
延長線上にある感じがあります。他にいかがでしょうか。

北川委員：私、この区民委員になる時の応募論文で書かせていただいたのですが、大
学との協働ということで、言い方が適切かどうか分かりませんが、新設と言うか比較
的歴史の新しい大学がいくつか来ていまして、なかなかユニークな教育をされている
ところがあるので、そういうところと区で協働をして事業を興せば、双方の知名度ア
ップにつながるのではないかと思います。具体的に言いますと、NHKの「あさいチ」
という番組で未来大学の、具体的な名前はおっしゃっていなかったのですが、地元の
お菓子屋さんとかと協働でチーズとか明太子とか珍しいお菓子を開発したという話
をやっていたのですが。そういうものというのは、NHKでやっていたぐらいであま
り知られていない。なので、未来大学の宣伝を足立区も進めていくということが出来
るのかどうか分からないのですが、シナジー効果ということで相互に知名度アップに
つながればいいのではないかなと考えました。

田中部会長：「あさいチ」私も見ました。NHKで朝あの時間に流れるということは、
かなり視聴率があるわけですから、シティプロモーションという視点からも非常に興
味深く見せていただきました。さまざまな協働の取り組みが取り上げられる印象があ
りますので、ぜひこういった点も考えていくことはとても大切だと思います。他にい
かがでしょうか。

北川委員：事業展開プラス広報につなげるということなので、それもちょうと書いて
いただければと思います。

田中部会長：広報につなげるというのは。

北川委員：大学との協働において、事業展開は既にやっているのですが、今日の例で
言えば、私もテレビでやるまで知らなかったのも、それをもっと区で宣伝してもいい
のではないのでしょうか。未来大学のホームページも時々見ているのですが、特に足立
区とやっていますというのはせいぜい区民講座をやっていますぐらいしかないので、
もう少しお互いに宣伝し合った方がいいのではないかと考えました。

田中部会長：これに関連した話でもかまいませんし、また別の話でもかまいませんが
いかがでしょうか。

ぬかが委員：何点かこの経営改革専門部会で毎回他の分野と違って、どちらかと言えば行財政改革に関わる、つまり区政の運営に関わる部分というのが基本構想でも基本計画でも出されてくるので、その分野での意見を何点か言わせていただこうと思っております。一つが、ここにもコンパクトな区政運営が良いと、職員数ということが書かれているのですが、その職場によってですが、必ずしも少なければいいのかというのを私は提起したいと思っています。現状で行きますと、例えば保育士さんが保育定数すら満たないで、臨時職員とか派遣職員が入っている現状があったり、そういう本当に必要な現状のところなどには、今退職補充ということで保育士さんなどは採用しないんですね。そうすると今は高齢の保育士さんと、あとは派遣の職員さんしかいないという、本当にまっとうな子どもたちへのサービスが出来るのかということや、それからやはり 3.11 以降言われたことですが、災害時にいざという時に本当に 23 区で一番職員数が割合で少ないということは、実は全世界でも少ないぐらいの少なさなわけです。それで本当に機能出来るのかということで、いろいろ実は私も問題意識を持って議論をしてきたところだったのですが、例えばいざという時の避難所、第 2 次避難所という体の不自由な方々の避難所を区の職員が何十か所も開設すると言うんです。それが本当に出来るのか。どこの誰が行くのかというのは一応決まってはいるのですが。だけど、そこに第 1 次避難所といって学校からいきなり体の不自由な人は行ってはいけないと言うんです。学校からあなたは第 2 次避難所に行ってくださいとやるということなのですが、ではそれは誰が連れていくのかという時に、今は少し変わってきていますが、最初は区の職員がと言っていたんです。そうすると、そういうことでは本当に必要なところには必要な職員を置いてもらうということも大事なことで、単純に少なければいいということではないと思うというのが 1 点です。

それから、実は人材の流出という観点で、非常勤職員の問題が重要だと思っています。足立区で働いているかなりの人、2,000 人ぐらいでしたか、非常勤の職員がいます。栄養士さんとか学校の司書さんとか、本当に大事な部署の方々が非常勤なのですが、例えば中国残留孤児の支援員だとか、あとは子ども家庭支援センター、困難な子どもの支援に当たる人たちとかみんな非常勤なのですが、足立の場合は 1 年更新で 4 回で更新が終わり、5 年目以降はもう更新が出来ないという方針があります。それによって例えば本当に経験を積んで優秀な人材が、他の区に行ってしまうために辞めているのです。そういう話を何回も聞くものですから、例えば非常勤などというのは正規の職員数に入らない部分ですが、区の職員削減の中で、削減したことになる職員数であるわけです。だけれども、そこも何とか少し人材育成という観点からぜひ考えていくべきだと思っています。それから、もっと言うと予算制度で足立区は包括予算制度というのを敷いていて、それをやっていない区も多いのですが、部ごとに予算を配分するのですが、その場合に生産的なものは別立てだということで、その部ごとにやりくりをするという仕組みになっているわけです。これももうちょうどそれこそ 10 年以上やっているので、やはり見直していく必要があるのではないかなと思います。包括予算制度の見直しというのが 2 点目です。

それから3点目に、先ほどもお話が出た、これからの施設の再編だったり、老朽化したものの建て替え、こういったものについて、足立でもお金をかなり積み立ててきているのですが、例えば学校の改築の計画を立てますが、統廃合によって新しい学校を先に壊すとか。統廃合というのは古い学校を壊すだけではなくて、耐震改修を終えたばかりの学校を壊してしまって、その統合新校を建てるために、例えば綾瀬の方の学校とか建て替えをしなければいけない学校が先送りになるなどの現状があります。やはりこの辺についてはきちんと見直すべきだろうと。そしてそれと共に、例えば改築の単価、これがこれからも労務単価はずっと上がっていくと思うのですが、以前学校の改築1校で25億で出来たものが、つい数年前に25億で見積もっていたのが、今は40億になっています。その原因は、労務単価はずっと上がっていくだろうとは思いますが、一方で建築資材の高騰。これは2020年のオリンピックまでがピークだろうと言われている中で、今急ぐ課題とそうではない課題を住み分けて、そして柔軟性を持って。例えばこれで基本構想・基本計画・実施計画とやると、実施計画だと年次計画でローリングしていくわけですから、この計画に載っていますからみたいな話になってくるわけです。そうではなくて、特に公共施設のそういう改築や何かについては、そういった情勢的なものも見ながらという柔軟性を持たせた方向性が必要なのではないかと思います。例えば資材が下がった頃に集中的に出来るような見通しというの必要であると考えています。

田中部会長：ありがとうございました。どれも非常に重要な論点だと思います。一つ目の職員数。非常に少ない、見方によっては非常に効率的な行政を回しているに見えるわけですが、その際に重要な視点として、質がきちんと担保されているのかという部分。それからそれに関連して二つ目。職員の質を高めるという観点から人材育成も含めて人材の流出を防ぐといった視点ということ。あとは最後の点は、施設の老朽化で建て替え等を考える時には、やはりまずは優先順位を付けて、かつ効率的なやり方、また柔軟性も持ったやり方をやっていくことが重要だと、どれも本当に重要な視点であると思います。どれも難しい話ではあるのですが、非常に大切な論点だと思います。他にいかがでしょうか。

北川委員：ぬかが先生の意見について補足と言うか、意見を述べさせていただきます。統廃合と改築・改修計画については、資料経③の4で、将来の課題④のところで、前回述べさせていただいたのですが、なかなか大規模開発がどこで出てくるかというのは、予測出来そうと出来ないところもあるので、多分ここからは増えないだろうということ。統廃合ということになったかと思いますが。平成28年度以降の大規模改修の時によく考えていかないと、壊したのに作るということになるところか、予定しているものさえ進まなくなってくると思います。これはここの会議の場で話すことではないかもしれませんが、大きな課題なのではないかと思います。

もう一点、保育士さんの話ですが、新設の大学のところでは保育学科の学生さんが

結構いらして、ボランティアが単位になるようなところもあって、そういう人を入れるのが適切かどうかはまた別ですが、そういう人たちの力も借りてやっていくというのは、ぬかが先生の意見とは合わないのですが、そういう人材も活かして、かつ教育も活かせるのではないかと考えました。

田中部会長：うまくいろいろなことがつながってやっていけるといいとは思いますが、そういった視点でさまざまな取り組みがどうつなげるといろいろな相乗効果が生まれるのかという視点も非常に重要だと思います。他にいかがでしょうか。

くぼた委員：経営改革というのは非常に幅広くて、雲をつかむようなところも多いと思うのですが、私が感じているところをバラバラと言わせていただきますと、実はこの前江戸川区の広報紙を見る機会がございました。10年前の足立区の広報紙を見る機会があったのですが、要は今、足立区がシティプロモーションという考え方を入れて、非常に経営戦略的に区の発行物も新しいものにしていこうということで努力をしているところはすごくいいなと感じました。足立区の広報紙を見ますと、毎回毎回結構写真にインパクトがあったり、あればいいかというのはまた議論がありますが、そういう面で言うと区民の皆様の目に触れていただいて、そして情報を持っていただくということが実は非常に重要だと思っています。

というのは、地方自治体というのはなかなかアピールが下手でして、それと同時になかなか限界があって、大手のマスコミのようにやれるわけでもないですし、常に非常にアピールというのはどこの自治体も苦勞をしているのですが、そういう中でやれる分野で一生懸命やっていこうという成果がシティプロモーションが出来たことによって一つひとつ出来てきていると感じます。まだまだ検討すべきところはあるのですが、この辺は足立区としては強みの一つに入れてもいいと思っています。そういう意味で言えば、シティプロモーションでさまざまなことをやって、別に印刷物だけやっているわけではないのですが、そこを中心にやっていくことは、一つの強みを押ししていくことになると思います。

あともう一点は、先ほどから大学の話がいろいろ出ておりますが、確かに10年前の足立区に大学がこれほど多くなるとは誰も思っていなかったのではないかと思います。電大の進出もそうですし、それから花畑に決まった文教大学もそうですが、非常にこれからは大学とのコラボというのは非常に大きなテーマになってくると思います。私は竹の塚の方に住んでいますので、文教大学の進出に興味を持っております。文教大学の卒業生が非常に立派な方がいらっしやいまして、そういうそういう点でもこれから力が入ってくるのではないかと考えておりますし、非常に楽しみでございます。ただ、花畑という立地環境がどうしても隣接、都県境ですので、足立区にどんなふうに皆さんを区の方に引き入れていくのかということも、これから大事な視点ではないかと思います。併せて人口も10年前に比べると63～64万だったものが67万まで来ている。先々止まるのですが、でもここが伸びてきているのは、新線の開通とか

そういったインフラ整備が出来てきた部分があるだろうと。こういった強みを更に活かしながら、要は強いところを伸ばしていくという観点が必要なのかなと思います。

最後にもう一点ですが、そうは言ってもお金がなければなかなかやりたいことも出来ないで、これからいわゆる経常収支は若干良くなっていますが、先ほどから出ている 60 億の問題ですとか今後のことを考えますと、なかなかそこら辺の資金は頑張っていますが、なかなか先が難しい部分もあるので、そこら辺のいわゆる財政をどう築いていくのか。その辺が大きな柱なのかなと思います。

田中部会長：どうもありがとうございました。シティプロモーション、広報というのは、足立区の強みの一つだと思っています。それを更に活かしていくという視点は非常に重要だと思います。あとは大学との協働も先ほどから繰り返し出ているところがありますし、あとはお金ですね。やっぱり難しい問題ですが、きちんと考えていくと。その上でやはりある程度のイメージというのを持った上で、どういう方向に持っていきたいのかということを経験しておくことが重要なことだと思います。

他にいかがでしょうか。

ただ委員：今シティプロモーションのお話が出ましたが、やはり足立区はどこが魅力かなということで私もいろいろ考えていたのですが、古いもので言えば西新井大師とありますが、足立区は今後どんどん発展を続けて、計画も進んでいるものがたくさんあります。今年答申が出される地下鉄 8 号線もそうですし、北綾瀬の始発の電車を出すようになる。舎人ライナーも新車両が出来て混雑緩和に向けて動き出している。また病院とか文教大学が来る。もう将来に向けて非常に明るいワクワクするような足立区なのではないかと思うのですが、やはりシティプロモーションの方で、足立区はこういうのをやっているよとか、今後こうなりますよというのが、私も区議がまだ 5 年目ですが、なかなか地域の方々がそうなのだから、ご高齢の方々は特にホームページを開くとかそういうことはあまり、スマートフォンも使わないので、なかなか周知というのが足立広報に限られてしまうところもあると思います。ぜひ区の若い方たちがアクセスするようなところから、またそこから区の情報が波及するような仕掛けづくりも必要だと思っています。決して足立区は下を向いている、とよく言われますが、決してそうではないと。足立区に住んで、他の地域で汗を流して働いて、そして足立区に戻ってきて体を休めると。そういう一つの地域でもあると私は思っていますので、決して下を向くようなことはないと思っています。

しかしながら、何をやるにしても財源というのは必要で、先ほどのグラフにもありましたように、財政状況は昔からあまり変わっていない。だけど使っていくお金は増えていくという中で、ではどうするのか。当たり前のことですが、支出を抑えて収入を増やしていく。その努力をしないといけない。では何をするのか。以前から本当に毎年のように議論をされていますが、まずは税の収納率を上げることです。これは当たり前のことですが、取りっぱぐれをなくそうと。税金というのは、世の中でこれ会

費のようなものだと、足立区のホームページにも書いてありますから。払えないのはしょうがない、その分公的な支援をしなければならない。でも支払えるのに払わないという方々がいれば、これは足立区を含め世の中のルールですから、それはしっかりと守っていかなければならない。でもなかなか言いにくい部分もあると思いますが、そのあたりをしっかりとメリハリを付けて、しっかり本格的に取り組んでいく。30年後にはそういった取りっぱぐれが本当にならないと言えるようなそういう地域にしていきたいと思います。

それには心の教育がなければひどい状況になる。まさにその通り。私もいろいろな委員会でも、学問のすすめを何とか授業に入れられないかという質問をしているのですが、やはりなぜ学校に行けるのか、なぜ生活が出来るのかという根本的なことです。納税意識ということをもっと高めていく。当たり前のことを当たり前にしていく。胸を張って税を納めていく。そういう教育も必要なのではないかと思っています。

あとは北千住駅も、名古屋や東京駅よりも乗降客数が多いという状況で自慢の駅なので、そのあたりもどんどん推しに推してアピールしていただきたいと思っています。

ちなみにたばこ税も毎年 50 億円以上増えている。足立区役所にやはり喫煙所の整備はしっかりしておくべきだと個人的に思っています。その掃除は誰がやるのか。シルバー人材センターにやっていただくとかして、それと同時に喫煙所以外でたばこを吸う方がいなくなれば、ビューティフルウィンドウズ運動にもつながっていくということにもなりますので、ぜひそのあたりも再度検討してやっていくべきだと思います。

最後に、担税力のある方に流入をしてもらう。それはそうなのですが、急にそんな都合のいいことになるのは難しいと思うのですが。担税力のある方が長く足立区にとどまっていたくためには、やはり子育て支援というのが非常に重要だと思います。ただ単に保育園が足りないところはしっかり整備していくべきだと私も思っていますが、ただ作ればいいというわけではないと思います。というのも、同じ足立区で親も住んでいるけれども、結婚して実家には住まないで近くのマンションに住んでいる方々も私の周りにいるのですが、出来ればご実家で一緒にお住まいになっていただいて、おじいちゃん・おばあちゃんがお孫さんを見るというような、昔に戻ると言いますか、そういった家族のあり方というのを再度見直していくというのが、足立区の基本構想と言いますか、家族のあるべき姿を見直す一つのいい時期になっていると思います。

保育園に1人入れば、大体いろいろな経費を含めて 40 万円以上掛かっていると聞いていますが、それであれば1人の子どもが保育園に入らなくても、家族が一緒にいれば、財政的にも使う金は減っていきますし、家族でどんどん見ていってもらう。お孫さんなりを見ていってもらう仕掛けを作るのであれば、思い切ってお家で3世代、4世代で一緒に住んでお孫さんを見るという家庭には、毎年 100 万円あげますとか、みんなで家族で子どもを育てるという仕掛けづくりを思い切ってやっていくというのをやっていってもおかしくないと思っています。なので、少し具体的な話になりましたが、やはり何をするにも財源が必要だと。だけれども、扱いたい計画と収入

と支出のバランスをしっかりと考えながら、将来、20年後、30年後の足立区はバランスの良い行政運営が出来ますように、今からしっかりとそういうけじめを付けた、メリハリを付けた財政運営をしていくべきだと考えております。

田中部会長：どうもありがとうございました。やはり何をするにも財源が必要となってくるので、財源抜きでいろいろな話をするということは、それはそれで夢のある話ではあるわけですが、財源を何とかする。そのためには先ほど事務局からご提示をいただいた資料を見ても分かるのですが、歳入と歳出の長期的な動きから見ると、そう遠くないうちに歳入・歳出の逆転というのが起こり得るという話であるわけですし、その際に鍵となってくるのは歳入を上げるというところが一つ。もう一つは当然歳出を減らすというところがあるわけですが、歳入を上げるか歳出を減らすというある種の二者択一を迫られるような状況にもなりかねないわけです。

歳入を上げるための方法としては、今おっしゃっていただいたように、まず最初に税金を払えない人を払えるようにするという意味では、教育や就業支援といったところが非常に重要だとは思いますが。あとは払えるけれども払っていないような場合は、そこは確実に回収出来るようにすることも重要だと思います。最後は担税力のある方というのを外から呼んでくるということで、確かに担税力のある方に今すぐ来てくださいと言って、ハイハイと来るわけがないので、それは非常に短期的に考えると、なかなか難しい話なのかもしれませんが。ここは、基本構想・基本理念といった非常に長期的な視点に立っていろいろな議論が出来る場所ですので、そういった少しスパンの長いような話というものも積極的に議論に乗せていくことがとても大切だと思います。

他にいかがでしょうか。

足立委員：歳出を減らすのに一番いいのは、社会保障と言いますか、民生費の抑制だと思います。私は商売をやっているのですが、働けるのに働かない。働くと民生費がもらえなくなるという考えの方もいらっしゃるようで、それをまずうまく働いていただくように、そして納税していただけるようにしていくのも、これは一番大事なことであると思っています。

田中部会長：民生費の抑制は真ん中あたり出てくる話で、あそこの2枚、今までの第1回から第3回までで出てきたところで、重要なのは収入増が難しいなら、支出の削減と負担の公平化が必要であるというご意見があるのと同時に、その二つ下のところにさまざまな区民の生活を支える経済的支援が必要であるということで、ある意味その逆方向と言うか、どちらもごもつともなわけですが、こうやって見ると二つ反対の方法の話というものも当然出てくるわけです。

今回はいろいろな議論をする場ですから、今までこういうふうに出てきて、むしろ歳出を増やすべきだという意見もひょっとするとありかもしれないですから、そうい

った視点も全然かまいませんので、ぜひご意見を出していただければと思います。既に出た意見に対してそうじゃないと言うのは難しいかもしれませんが、あえてそこは議論をする場ですので、ぜひお気付きの点があればお願いします。

ぬかが委員：税の収納率を上げるという課題についてですが、私たち例えば国民健康保険料とかいろいろな税だけじゃなくて、足立では国保と介護とそれから住民税と保育料と区営住宅の家賃と一括で催告とかいろいろなことをやっています。特に例えば本当に払える金額なのかということもあるわけです。つまり応能負担になっているのかという問題があるのかなと思っています。例えば保育料とか介護保険料で行きますと、なぜ低所得者が多いのに足立区の保険料や介護保険料は 23 区でトップクラスで高いのかという声が出るような実態があるわけです。

よく私は国民健康保険の議論の時に、国民健康保険は 23 区一体なものですから、区とも一致するんだけど、払える金額、本当に応能性があるって払える金額にしてきちんと払ってもら。その方が例えば未納があれば極端な話、最後は差し押さえまでやらなければいけないんです。手間もお金もいっぱい掛かるわけです。それよりも本当に払える応能性で、もちろん区だけで出来ない課題もありますが、応能性を高めてそしてやっていくと。例えば介護保険の施設の利用率で行くと、介護保険制度導入前だと、特別養護老人ホームは収入がない人は 0 円でした。ヘルパーさんもそうですが、ところが大金持ちの人。足立区にも 1 億円以上という人は何人もいらして、そういう人たちは毎月全額なんです。だから 40～50 万円払うのです。そのぐらい応能性が介護保険制度、2000 年の導入前はあったのですが、導入後というのは一律 1 割、今度は 2 割ということになるわけですから、やはり本当に区で出来ること出来ないことはありますが、応能性ということできちんと収入を持っていくことが必要だと思います。

あとは意外と私たちも担税力のある区民をとというのは昔から言われていて、結果として担税力がある人が入ってきているのだなというのはよく聞くケースがあって。例えば西新井の駅前とか新田の地域とか子どもも急増していて、そしてマンションがたくさん建ち並んでいるところでの保育料なども含めて、非常に収入が上がっています。そういう人たちがたくさん来ていて、知り合いとかに聞いてみても、やはりそういう人が移り住んでくるということでは希望があるのだろうと思います。足立区ではエリアデザインを 7 地域でやっているわけですから、やはりそういう希望もあるのではないかと思います。

それから財政論のところでは、確かに経常収支比率も 8 割を切っているというのは、全国で見ると数少ないわけで、とてもいい方になるわけです。そういう状況で、ただし区税収入は少ない。財政調整金によって補われているという関係にあるけれども、この財政調整金の原資が今国から狙われていて、法人税などを国税化しようと。そうすると原資がなくなるという問題があって、これは今、23 区でも一致して立ち向かっていこうと言っているんだけど、その中でもやはり都市部の行政課題というのはまだまだあると言われていて、保育の問題とか施設の更新とか、やはり人口が多い

だけの課題がある。それに必要な財源を確保すべきだというのが 23 区で今国に向かって各区長、足立区長も含めて一体で上げている部分だと思います。やはりそういう見地は必要で、財政論を語る時に区だけで出来ること、区で努力する分野。それと共に国や関係機関に向けて一致して財源を確保する。そういう角度も必要なのではないかと思います。

田中部会長：非常に重要なお話だと思います。今日配付した資料で、歳入については財政調整交付金を平成 28 年度より税制改革の影響により約 60 億円減収が見込まれるとあるわけですが、地方分権化という流れの中で、これからどんどん財政が変化していくということにさらされて、一つの例がここに出ていると思います。その際に区が出来ることと、国、特に足立区はいろいろな福祉的な役割を受けていますので、それに対してはそれ相応の役割というものを受けていますので、それに対してはそれ相応のものがあるべきではないかということもあると思います。

石川委員：まず経営改革ということなので、やはり一番地方自治の根幹が最小の経費で最大の効果をというのがあると思います。これは今まで足立区も目指してきたと思っています。私は行政の人間なので、少し言い訳も含めて言いますが。その中でやはり民間で成立するものは民間で成立してもらってもいいのではないかとということで、例えば保育園や給食の民営化などを進めてきたところです。ただし、民間と公共のバランスがあると思ひまして、公共の方がいいのか、民間の方がいいのか、これは識別した上でやらなければいけないというのがあると思います。なおかつ、民間にやっていただくなら、では行政の職員はどうするのかという時に、民間が出来ないところにつぎ込むべきだなと。例えば足立区で言えば自殺対策の話だとか、あるいはごみ屋敷の話。あるいはこれからは生活保護が増えていて、これをどうするかという時に、生活保護のケースワーカーは増やしていかなければいけない。これは今まではあまり増やさなかったのですが、そういうところには実際に民間にお願いして職員は浮いたわけですから、そこはそちらに回さなければいけないと思います。ぜひその辺は今後取り入れていきたいと思っています。

先ほど非常勤の話が出ましたが、これは任用制度の話なので、いろいろな人事委員会が足立区にないということで、特別区ですといろいろありますが、その辺は壁として破っていかないといけないのではないかと考えています。これはご意見としてお聞きしたいなと思います。

あとは最小の経費で最大の効果の中で、保険制度というのがいろいろ最初はいいいのですが、なかなか給付が増えてくると、なかなか制度として成立しないみたいな面があります。私は介護保険が発足する時に福祉部関係にいましたので、実は普通のサラリーマンが特養ホームに預けると 40 万、50 万取られたのです。そうすると預けられないのですね。それで家で見るとしか。その中でそうすると、奥様がかなりノイローゼになることがあったので、では介護保険制度というのを取り入れることによって、

誰でも保険料を払っていただければ、1割負担、2割負担ということで預けられますよということになっています。ただし、始まってもう既に10年を過ぎましたので、そうすると制度のひずみがありますので、その辺は変えていく必要があると思いますが、当初の話としては、やはり最小の経費で最大の効果を上げていくための一つの制度であり、またそれを利用する方々がおしなべて、収入の少ない人でも0円ではないというところから始まったと思っています。

最後にもう一つ言いたいのは、30年後を見た時に、日本の人口が減りますから、足立区も減るのだと思います。それを出来るだけ緩やかな変化に変えていくということが必要だと思っています。増えるにしても減るにしても、極端に減ったり増えたりするのが一番いけないと思っています。緩やかに変化に出来ないものかと思っています。緩やかな変化にするためには、やはりまちの魅力を作って行って、先ほどの大学とか安全とか教育とか出ていましたので、そういうものを充実させて、まちの魅力を作ることによって出来れば社会増で少し増えるような。自然増がどうしても望めないのであれば、社会増で増えるような形。あるいは減り方も少なく出来るようなそういう施策が出来たらいいなと思っています。とにかく緩やかな、出来れば成長したいですが、成長が出来ないのであれば緩やかな衰退という言葉がいいのか分かりませんが、変化に止められたらなと思っています。

石橋委員：いろいろな意見があっていいと思うのであえて言わせていただきます。やはり足立区というのは、23区の中で財政的に言えばいつも下ですし、それからいろいろな面で23区の中で下から数えた方が早いという要素をいっぱい持っています。やはりそういったことからして、まず区民が誇りを持てるような区になりたい。財政的に豊かになるというのは、言うべくしてとても難しいことだと思うし、おそらく出来ないと思います。今、一番問題なのは、前から言われていますように、統計的に見て客観データが示すように、生産年齢人口が非常に少ない。扶助費がかかる年齢層ばかりで老年期の人が多い。私もそうですが、真ん中の一番大事なところがないというこの辺がいかなともしがたい。その上での区政の運営でなければならないと。そこはやはりいくらこうありたいと言っても、現実には難しいことがたくさんあると思います。

現実的に、では何をこの10年、20年の間に区としてやるかといえば、やはり金は掛けなくても、区民にとってメリットがある、誇りが持てる。あるいは、一番大事な担税能力のある年齢層を区内に呼び込むという方策。税金が取れないような人から取ることに労力を注ぐのも、それはそれで必要ですし、そういう人を救済することもちろん必要ですが、大きな流れとしては、やはり貧しくても区民が幸せに感じるような区政運営を私はすべきだと思います。

そのためには、お金を掛けないで何が出来るかということを徹底的に考えるべきだと思います。一つはシティプロモーションなどは非常に先駆的な面があるかと思います。それから、いろんな面で足立区が23区の中で結構すごいことをやっているとい

目置かれるような政策と言うか、施策。これは金が掛かるものはちょっと不利ですから、お金があまり掛からないけど効果があるものをいろいろ考えるべきだと思います。先ほどから出ていますように、足立区には五つの大学が来ているわけです。この大学が来たということを、それぞれの部署で研究されているのですが、もっと活用すべきではないかと思います。

それが私は区が仲介を取るだけで、ノウハウとかいろいろな研究、知恵を絞れば、あまりお金が掛からないで担税能力のある企業を呼び込むとかですね。区内には土地とかその他いろいろな他区に比べれば地価は安いわけですから、しかも都心に非常に近いというメリットもあるわけですから、そういうことを加味して、いかに優良企業、あるいは優良な人材を足立区に吸い寄せるか。それに最大限の知恵を絞るべきではないかと思います。

それと、区民の力もやはり借りなければ、協働ということはあるようですが、もうやられています、やはり自治会活動ですね。区と自治会との協働というのはまだまだ何かやっていると言う割には、あまり区から自治会・町会は下請けみたいになっているだけで、何か各町会・自治会が非常に関係があって、住んでいる人が非常に区政に満足するという感じにはなっていないと思います。それはなかなかいろいろな人がいるから、全員がそうするのは難しいと思いますが、やっぱり自治会とか町会活動が活発になれば、非常に区民の意識が変わってくると思います。その努力はそんなにお金を掛けなくても出来ると思います。

北川委員：石橋委員のご意見にもつながるのですが、大学を利用することは前から言わせていただいています、子どものレベルアップに区内の大学を活用すべきという意見も述べさせていただきました。具体的に各大学がどういう研究をしているかを把握して、これは未来大学にモチベーション学科というのがあるので、それで言わせていただいたのですが。先ほど出された、働けるのに働かないとか、そういう就労支援の面でも役立てるようなことをもしやっている研究者がいるのであれば、そういうところと積極的にコラボをしていく。区側が大学で具体的にどういうふうに教えているかを把握して、それで区が困っている課題を解決するのにどういうふうに利用していただけるかというのを取りまとめをするような部署が足立区にあるのかは知りませんが、もしあればそういうところで研究内容にもっと踏み込んだコラボが出来るような機関を作ってはどうかというのが一つ。

あと、今はここに出ていないのですが、私、薬剤師なのですが、ジェネリックの推進というのをやっていらっしゃるようですが、やはり現場を見ていると医師側も患者さん側もブランドものの方がいいとおっしゃる方がいるのですが、ジェネリックの方はむしろ使いやすい工夫をしているところが結構あります。そういうのが知られていないので、具体的にジェネリックのメーカーさんに聞くと、そういうのを説明しますというところもあるので、もしそういうのをこの足立区内で、区役所側でそういう機関があるならば、そういうものを具体的に取り込むことは、ジェネリックメーカーなりジ

ジェネリック協会というところと協力すればもっと出来るということで、医師側の意識を変えらるということと、患者側の意識を変えらるということと両方出来ると思っています。あとはお話し調剤と言って、最初の何日間だけ作って、良かったらそのままジェネリックとか、嫌だったら元に戻すという制度もありますので、そういうものも使っていたらいいというのが現場の薬剤師として感じています。

田中部会長：どうもありがとうございました。非常に重要な点で、ジェネリックの話は専門に基づいたお話ですので、説得力のある話だったと思います。特に私の強い関心を持ったのは一つ目でして、大学との協働という、どうしても今のところだと学校に大学生が行って何か一緒にやるとか、あとは逆に子どもたちが学校に来てとか、キャンパスを開放してということが中心的に考えられているのですが、やはり大学というのは研究機関ですので、大学の研究にとってメリットがあるような協働であれば、大学も非常に乗りやすいと思います。私も一研究者としてそういうところは非常に強く同意します。

ぬかが委員：先ほどの石橋委員の言われたお金がなくても出来ることというのに、私も実はやっぱり鍵は人だと思っています。足立区、せっかく 67 万人も人がいて、本当にその人たちの力をどう生かせるのかということのも大事な要素だと思っています。その住民力を生かすというののもちょっとキーワードかなと思っているのですが。つい最近最終回になったナポレオンの村という限界集落を立ち直らせた唐沢寿明のドラマがあるのですが、実は半分ぐらい実話が入っているんです。それをモデル地域に全部普及させるみたいな話をやった、それは駄目だと。その地域によって違うし、箱物ではなくて、その人が何を願うか。その人のやる気・モチベーションをどう活かして、それを施策に結び付けるかが大事なのだということで締めくくられるドラマなのですが。本当に例えば公共施設の再配置一つ取っても、大体が通常だと上からのマネジメント計画になるのですが、一方で自治体によってはそれを数値目標とか人口推計まで地区ごとに徹底議論して出させて、そして住民の自治計画にするというところも生まれているそうなんです、全国の中では。

本当にそういうことをなかなか理想論かもしれないけれども、住民力を生かすというのは、先ほどあったまさに下請けみたいに、これをやってくださいだと住民力は活きなくて、本当に自分たちで考えて、自分たちで一緒に区と取り組めるのだとなった時に、ものすごいパワーを発揮すると思うんです。そういう方向を持って、あらゆる全庁で努力していく。なかなか率直に言うと区の職員の方は得意じゃない方もいるので、そこは本当に全体意見の中でも意見交換会というのが出ていますが、本当にそういうボトムアップ的なそういうやり方というのを一緒に考えて、一緒にみんなで議論をして決めると、絶対にそれに向けて協力しようとか頑張ろうという話になってきますよね。そういう方向性というのが私らからはトップダウンではなくてボトムアップという言い方をしてしまうのですが、やはり必要なのではないかとこの先ほどお

話を聞いてすごく思いました。

田中部会長：どうもありがとうございました。非常に重要だと思います。ボトムアップ。全体会の方でも提案型の施策を考えていくということも少し出ていたような記憶があるのですが、住民力という言葉は協働を考えていく上で非常に重要なキーワードになると思います。

だいたいいろいろ出揃ってきたような感じもありますが、まだまだ貼る場所はたくさん残っていますので、ぜひどんどんとご意見をねじ込んでいただければと思います。いかがでしょうか。

石川委員：住民力という言葉が出ましたが、ある会合と言うか研究会に行った時に、やはり限界集落を活性化していくためには何が必要かということで、四つあるという話が出ました。馬鹿者と若者とよそ者と専門って言われたんですね。そこは関西ですから、者をもんと言ってしまう中で、外から何かの意見があると、例えば千住のまちにすごく魅力があると言われていますが、あれを最初に発見したのは外から来た人であって、住んでいる人はそれを魅力に感じていなかったということがあります。よそから見てどうだという評価があることは非常にいいことだと思います。それから馬鹿者というのは、公務員なのに公務員でないみたいな行動をして、まちの中で今のシティプロの人たちみたいに入っていくという。それから若者がいるということが非常にいいことなので。これは千住だと大学があるということで、その人たちの力を使っていく。それから専門は、それを動かしていくための専門家。コーディネーターだとか、あるいは何か事業をやる時の専門家がいるというこの四つが揃うと、非常にまちが動き出すということがあります。

ですから、そういう意味では、そういうものが入れる仕組みづくりと言うか、これはまちづくりの分野になるかもしれませんが、そういうものも必要であります。住民力というものには、よそから見た人の視点が重要だと思っています。

田中部会長：よそから見た目というのは、私も非常に重要だと思います。例えば今まで出た意見の中で、区民意見というのは当然十二分にくんでいくべきなのですが、外から見てどうなのかということもやはり結構重要な視点として取り入れていく余地があると思います。その一つとしてシティプロモーションなど、区の強みとして外に向かって情報を発信しているわけですが、やはりよそからの視点というのも特に担税力のある方を呼び込むなどという目的からも重要になるという気がします。

くばた委員：田中先生の大学は文京区ですね。何かコラボをやっていることはあるのですか。

田中部会長：いきなり言われてもなかなかちょっと思い浮かばないのですが、やって

いないはずはないです。間違いなくやっているとは思いますが。

くぼた委員：例えばうちで言うと東京電大とうちの例えば産経部とのコラボで、いろいろな取り組みが始まっているのですが、あのようなことをやっていく中で、田中先生の大学はリーディング大学ですから、こんなものがあるとか、もしご意見があればまたどこかで聞かせていただけるとありがたいです。

田中部会長：分かりました。どうもありがとうございます。少し調べてみたいと思います。

北川委員：学生さんを文京区の一人暮らしのお年寄りのところに下宿させて、共同生活をさせるみたいなことは前にテレビで、東大の学生さんが住むというのをやっていた記憶があります。

田中部会長：私は今年の4月に着任して日が浅いので。そういったこともあるわけですね。そういった本当に人と人との関わりが出来るような協働というのがとても大切な感じがします。一緒に暮らすということで、異なる世代がつながりますし、本当に人と人とのつながりが少しずつ出来ていく。大学を仲介してですが、とても大切な非常に有効的な試みだと思います。

北川委員：朝のNHKの「あさイチ」の街頭インタビューで、渋谷で足立区についてどう思いますかというのをやっていて、わざわざ行くところじゃないとか、何をやっているのか全然分からないとかっていう意見があって、それが適正かどうか分からないのですが、何かお金も掛かるようなものではなくて、出来るようなものを。そうすると、やはり地元の大学を大事にするというのは、長期的には有効なのかなとも思いました。何かを誘致するということになるとうちもお金も掛かりますので。

田中部会長：やはり大学がある場所の近くに住む学生は多いですから、それを一つのきっかけにして、例えば地方から出てきたような男性が、そのまま都市部に就職して住むのは住み慣れた足立区ということも十二分にあるわけです。そういったことも考えていくことは出来ると思います。結構大学との協働の話とか、先ほどまで財政運営の話がたくさん出ていましたが。あとは前半では、適正な職員数。区政を回していく上で、これもまた財政の話に関連するわけですが、本当に質が担保出来ているのかどうかということもあるわけですが、この他にも何でも思い付くことがあればお願いします。

ただ委員：もう本当に経営改革というのは、最初に田中先生がおっしゃったように、いろいろなところと関わっているものが多すぎて、すべてが経営改革につながるの

はないかというぐらいなのですが。ざっくりと 30 年後の足立区を見た時に、副区長がおっしゃったように緩やかな人口減少が望ましいということでしたが、私もそう思います。それにはこれも区も大きく推進しているのですが、健康寿命をしっかりと保っていこうということで、これも若いうちから野菜から食べようということをやっていますので、こういった取り組みを一過性のものではなくて、これまでしっかり検証をしながら、健康長寿の足立区に向かって食べ物をしっかりと食べて、糖尿病を減らして、健康で長生き出来る健康長寿の足立区だということが一つの自慢になるような施策をぜひご高齢の方々にはしっかりと浸透していくような。若いうちからそういう施策をもっと知ってもらえるように推し進めていくべきだと思います。

あとはそれと一緒に、食べ物だけではなくて運動。気軽に運動が出来るようなそういう場をどんどんして、よくケーブルテレビで運動をやっていますが、それこそ住民力ですね。それぞれの地域でそれぞれの皆さん方で集まって、顔を合わせて運動をするなり、体を動かすなりしながら、顔を合わせて地域のそういったところがいろいろなところにつながっていく。より良い足立区に変わっていくと思います。ターゲットと言うか、これは高齢者。ご高齢の方をどうしていくのか。高齢になっていく今の 20 代、30 代の間に何が出来るのかということを今のうちからしっかりと考えていくべきだと思います。

ぬかが委員：私も大学連携はすごく大事だと思っています。思い起こしてみると、今度来る文教大学に行った時に、教育学部系の大学なものですから、みんな勉強をしたいんです。生きた勉強をしたくて、障がいを持つ子どもたちとふれあう。いわゆる足立で言うと特別支援学級とかそういうのを補助するとか、そういうことって募集が掛かるとみんな手を上げるんです。やっぱりそういう連携の可能性というのも、本当に学生さんとの連携の可能性というのもどんどん高まっていくというのが一つ。

それから、足立の魅力ということで実は知る人ぞ知る結構売れている雑誌で「大人の週末」という雑誌を御存じでしょうか。東京都内を基本に覆面調査をしながら、本当においしいお店だけを載せたり特集を組んでいくという「大人の週末」という雑誌で、2 か月ほど前でしょうか。二つのまちの魅力ということで、北千住と下北沢だったんです。まず北千住の特集。北千住と下北がこのおいしいもの特集、覆面調査だと。まちの魅力を広げるということで、非常に私もうれしかったのですが、やはりだからそういう点ではシティプロモーションの役割というのは本当に大きいと思っているのと、それを思った時に実は足立さんが語ってくださると思うのですが、足立区の商店街振興組合連合会と葛飾の方で協働して、足立と葛飾の協働のバルというのを昨年度にやったんです。それに私も産業振興だから参加しようということで何人かで参加したら、本当に北千住とか亀有とかまちを回っていると、そのバルの参加証を持ってグルグル回ったり、行列が出来たりしているんです。みんなの感想、私たちもそうですが、普段だったら行かないお店に行けたとか、普段だったら知らなかったところに行けたとか、今度はこのお店にも行ける、常連になれるなんていう話になるわけです。

実はそれは足立区にお金を落とすことにもつながるし、税収増にもつながる。地域経済の活性化につながると。本当にこれがもっともっと活発化していったら、いい事業だろうなと思いました。やはりそういう魅力の打ち出し方もあると思いました。そういう方向性も大事にしていく必要があるというのを、経営改革というよりはくらしになるかもしれないですが、非常にそれは申し上げたいと思いました。

足立委員：私が手を挙げて話すべきところでしたが、バルを行いました。あれは東京都から 6,700 万円の補助金が出まして、それを葛飾区と折半しまして、足立区の場合は綾瀬と北千住。あとはちょっと遠くなるのですが、舎人方面は駅がなくて出来なかったのですが、千住と綾瀬においてはかなり盛り上がりました。本当にどうもありがとうございました。

昨日私、NHKで南海トラフ地震が起こると、それによってどうなるかということで、静岡県焼津市が話題に出ていました。そこでは静岡県は 33 万人の方が犠牲になると。それを 1 人も犠牲を出さないのだということで、焼津のまちで女子高等学校でしたか、その生徒さんが京都大学の地震の専門家と一緒に、講義を聞きながらまちに出まして、各家庭を回るんです。もし発災したらどこに逃げますかと。今、大きな建物というのはあまりないらしいんですね。避難場所みたいなものを作っているらしいのですが、それでは足りないと。では頑丈な耐震性のある 3 階建ての建物に逃げるという結論に達しまして、そうすると結局最初は半分以上の方が、800 人だかが焼津のまちで亡くなる。そうやって生徒さんが各家庭を回って意見を聞いたりして、あそこに逃げた方がいいといった発言をしながらやったところ、死者が 0 になったということをやっていました。やはりそういう時に、高校生の力を借りる。私も避難所運営本部の本部長をやっているまして、3.11 の時には開設したんですね。午後の 2 時 46 分でした、あれが発災したのは。そうするともう夕方に帰れなくなる人が出て、電車も止まりますし。で、東京武道館の近くなので、そこにも 100 人近くが帰れなくて急遽来られた方がいました。建物の高いところに住んでいる方も、建物が揺れて怖くていられないというので、一時貸してくださいというので来た人もいました。毛布も避難所運営本部には 2,000 枚も用意してありまして、その毛布を体育館に敷いて、寝ずに見ていたのですが、そういうこともありました。その中学校にも中学消防隊というのがありまして、いざという時にはそういう生徒も来て、我々老人よりはよほど力があって、活力もありますし、そういう方の力を借りると。こういうことにつながってくるのではないのでしょうか。今人手不足とかありますが、そういう遊んでいると言うか、目に見えない中学生・高校生をうまく地域に取り込んでやっていかないとこれからはやっていけないのではないかと思います。

田中部会長：今まで協働というところで、大学を中心に議論をしてきたわけですが、中学生・高校生というのを取り込んでいくと。それであともう一つ、かなり前の方で出てきたものですが、それに対して少ない職員数で本当に対応出来るのかというお話

もありましたが、そこにも関連してくる非常に重要なお話だったと思います。どうもありがとうございました。

議論もまだ尽きないと思うのですが、かなり時間も迫ってまいりました。本日の議論というのはとりあえずここで一度終了させていただきたいと思います。本日いただいたご意見は前の方でまとめておりますが、これを事務局の方である程度取りまとめていただきまして、それについて議論を進めていくことにしたいと思いますがそれでよろしいでしょうか。

(異議なし)

田中部会長：どうもありがとうございました。ではそのように事務局でまとめていただければと思いますのでよろしくお願いします。

基本構想担当課長：まとめて事前にお送りするようにしたいと思います。また、次回は人口推計のご説明をさせていただきます。

田中部会長：それでは、本日はどうもありがとうございました。これで第1回経営改革専門部会を終了いたします。次回もどうぞよろしくお願いいたします。それでは最後に事務局から事務連絡をお願いします。

5 事務連絡

基本構想担当課長：次回の開催について事務連絡がございます。次回は10月22日の木曜日、午後2時から4時です。会場はここから変わしまして、区役所の南館、12階の1202会議室となります。もしもご欠席となる場合は、これまで同様に電話もしくはメール等でお知らせいただければ幸いです。本日は誠にありがとうございました。なおお車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お伝えください。ありがとうございました。

午後4時00分 閉会